

区長と話そう、聞いてみよう すぎなミーティング

テーマ「水害の危険から身を守るために」 ～水害ハザードマップから考えてみよう～

令和元年6月22日(土)

区では、日頃区政との接点が少ない方々を含む幅広い区民の方と区長とが、直接、区の抱える行政課題について意見交換を行う、「区長と話そう、聞いてみよう すぎなミーティング」を実施しています。今回は、水害の危険について、今年度改定した水害ハザードマップも活用して話し合いました。

◇杉並区の水害対策について

区長から一言

●水害対策は困難な課題

今日のテーマである「水害」は、その対応が非常に困難な課題の一つです。自助・共助・公助について、それぞれが当事者として真剣に取り組まないと、被害を100%免れることはできません。区も東京都と協議しながら取組を進めていますが、抜本的な対策をしていかないと、水害に対する安心・安全は確保できないと思っています。



●気候変動による豪雨の頻発

都市型水害、特にゲリラ豪雨による水害への対策が大きな課題ですが、その背景には、やはり気候変動があるのだと思います。平成17年の9月には善福寺川や神田川が一斉に溢れて、激甚災害として国からの指定を受けたほどの水害になりました。その後も水害はたびたび発生し、昨年8月27日に阿佐ヶ谷や久我山の駅前が浸水した際は、わずか30分で79mmもの雨が降りました。

●現在の河川、下水の取組状況

水害を抑制するには、河川を深く掘るか、川幅を拡げていくということになります。河川改修は上流だけやっても下流が溢れてしまうため、下流から上流に向かって徐々に拡げていくわけですが、現在、善福寺川では、時間雨量50mm対応として、大宮一丁目にあ

る二枚橋までが完成し、引き続き、その上流部となる大宮八幡宮の下あたりまで工事を進めています。しかしながら、昨今は時間50mm以上の雨が頻発している状況なので、善福寺の方まで拡げていかないと環八の上流域は安全とは言い切れません。

下水はどうかというと、区部では30年程前に概ね100%整備されました。当区を含む区部の約8割が合流式下水道となっていて、大雨の際には下水管内を流れる雨水が河川に流れ込む仕組みとなっています。近年の時間50mm以上の雨が頻繁に降るような状況では、善福寺川や神田川、妙正寺川に流れ込む量が増え、その時には河川の水位もかなり高くなっているため、溢れてしまうということになります。そこで、下水道に関する対策として地中をシールド工法で掘って、一旦雨水を貯めて、雨が静まったら放流するという貯留管の整備をいたる所で進めています。こうしたことでかなり良くなると思います。しかし、善福寺川の上流部分が完全に安全になるかということ、まだまだ弱いと言わざるを得ません。河川改修とか貯留管整備をやりながら、もっと大規模なものをやる必要があるということで、東京都としても考えているのが調節池です。

●抜本的な水害対策が必要

神田川で、下高井戸おおぞら公園に隣接する公園予定地に調節池を作る計画があり、今、工事が始まる段階にきています。10年ぐらいかかりますが、完成すれば神田川も相当安全になります。取り残されているの

が善福寺川です。善福寺川の抜本対策は大きな水を飲みこむ調節池を環八より上流に造るということになるわけですが、どこに作るかという具体的な話になると大変です。長期間にわたり土砂を搬出するダンプが地域を往来することになります。穴を掘るためには、シールドの機械を入れる大きな用地も必要となります。また、場所を確保したとしても、工事に対する理解を得られるかが非常に大きな課題です。

また、環七の調節池は満杯になったら8つのポンプで水を汲み上げて排水するのですが、完了するのに丸2日かかるとのこと。つまり排水が終わる前に連続してゲリラ豪雨が発生した場合は危ないわけです。

以前に、豪雨で環七調節池のほぼ8割が埋まり、翌日に台風が接近するという予報が出たことがありました。幸い、その台風では大量の雨は降らなかったのですが、やはり危険性はあるということになります。それを解消するには、環七の調節池をもっと延長して、リアルタイムで海に流せるような仕組みをつくらないと、抜本的な解決はできないと考えています。



◇土木計画課三浦課長から 「水害対策の現状とハザードマップに関する説明」

●杉並区の現状



区内には北から妙正寺川、善福寺川、神田川があり、川沿いに住宅地が広がっています。市街化が進み、地面はアスファルトやコンクリートで覆われ、地面の吸水・保水機能が低下しているうえ、川幅は狭く、特に合流する場所では雨が降ると一気に増水するような状況です。

●杉並区の下水道

区内の下水道は、家庭からの雑排水と、雨水が下水管で一緒になっています。大雨が降ると雨水が一気に下水管に流れ込むため、下水の処理能力が非常に課題になっています。平成17年9月4日の集中豪雨では、下水道の処理能力が追いつかず逆流して水が溢れ、道路上では車が通れなくなりました。

また、昨年の集中豪雨の際も、やはり下水の処理能力が追いつかず、阿佐ヶ谷や久我山駅前、半地下駐車場、マンションの地下などで浸水の被害がありました。

●杉並区の水害対策

河川整備では、護岸を改修して河川断面を大きくすることで、水を流れやすくする対策を東京都が行っています。また、区内には、工事中も含めて5か所の調節池が設置されています。

区では、道路上にU字溝をつくり、より多くの雨水をキャッチできるように雨水枡を増設していることに加え、河川では、土砂の取り除きや、除草などの対策を行っています。

雨水の流出の抑制については、区立学校の校庭の下に貯留槽を設置したり、道路のアスファルトに粗い舗装材を使い、雨水を浸み込ませるようなこともしています。

また、区の施設に土嚢を備え、区民へ貸し出しています。川沿いや水害の多い地域には土嚢置き場を設置し、自由に持ち出せるようにしています。さらに、各家庭における浸透枡や浸透トレンチ管の設置、地下や半地下の入口における防水板パネルの設置といった対策について工事費の助成をしています。

●水害ハザードマップ

今年4月1日、考えられる最大降雨量を1時間当たり153mmと想定して、「水害ハザードマップ」を改定

しました。



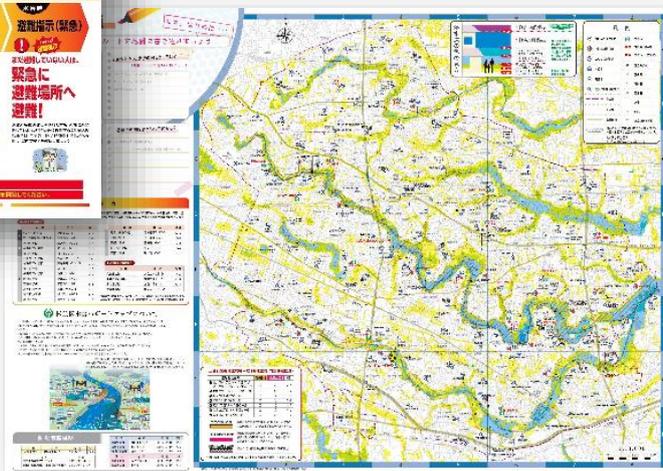
ハザードマップを開いていただきますと、まず、「日ごろから備えておくこと」として、各家庭で身の周りの状況を確認し、避難場所までの経路等を話し合うこと、避難時に持ち出す物の準備等について記載しています。また、地域においては、側溝や雨水

樋に落ち葉等が詰まって道路冠水が発生しないように、日頃から手入れ・掃除に協力していただけるよう記載しております。
また、「入手したい情報」として杉並区からの配信情報や天気予報などの気象情報などをいち早くキャッチしていただけるよう、ホームページアドレスや読み取り用のQRコードを掲載しております。そして、「情報に合わせて行動を確認しましょう」では、こうした配信情報をもとに危険度に応じて何をすべきか段階的に分かりやすく紹介しています。

そして裏面は区全域のマップです。黄色から水色、さらに段々と濃い水色になっていくにつれて、浸水が深くなることを表しています。区内 22 か所の避難所も記載しています。気象状況にもよりますが、まずは杉並会館と荻窪地域区民センターの 2 か所を開設し、その後、状況に応じて避難所を増設していきます。避難所の開設状況は区のホームページや SNS のほか、メール配信、電話でのお問い合わせによりお知らせします。

「私の行動計画」では、自宅からの避難経路や、こういった時に避難行動をしたらいいかなどを、あらかじめ書き込めるようにしています。

この「水害ハザードマップ」は、自助として各家庭での被害の軽減に繋いでいただくとともに、地域での共助の取組にも活用していただきたく、普及啓発に努めたいと考えています。



◇水害対策について、地域でできること。区にやってほしいこと。

「水害のないまち」としていくためにどうしたらいいか、皆さんでアイデアを出し合いました。

杉並区でも善福寺川の河川周辺で、水害が現実起きてきているということをまず知らなくてはいけない。それを解決するための選択肢の情報提供も必要



小中学校の校庭に貯水槽を設置するのはいいアイデア



土でなく、必要な時に水を入れて使う水囊もあるので、そうしたものも配備すれば、より身近にアクションできるようになるのでは

予知に力を入れていって、被害を被らないようにすることも大切

やはり水害のないまちにするには、河川、下水などの整備と、新たに大きな貯留施設が必要だと思う



なぜ貯留施設が必要なのか、正確な情報と丁寧な説明が必要

住民参加型の水害体験イベントを実施してはどうだろうか



貯水施設に区民が楽しくなるプラスαの施設を造るといいのでは

子どもたちが水害のことを知り、先を見据えて考えられるように授業などで教えるといいと思う

◇最後に区長から

本日は、いろいろなご提案・アイデア等をありがとうございました。

私は、区長として一番大事なことは、問題に対して取組を積み重ね、一つ一つ解決していくということだと思っています。

冒頭にも申し上げましたが、今日のテーマである「水害」は、解決が非常に困難なテーマです。議論の中で、皆さんも初めて「ああ、そういうことがあるんだ」と気づいたこともあったのではないのでしょうか。

水害対策もいろいろ工夫をしていますが、やはり自助・共助・公助と、それぞれが当事者として真剣に取り組んでいく必要があります。

現在、東京都ともいろいろ協議をしているところですが、今日皆さんからいただいたご意見を参考にさせていただきながら、抜本的な対策を区民の皆さんに打ち出していけるよう、取組を進めていきたいと思えます。今日は大変有意義な時間を皆さんと共有できました。本当にありがとうございました。

◇今日のすぎなミーティングを振り返って

○参加するまでは、緊張してお話ができるか心配でした。実際に参加してみると、和やかで自由な雰囲気だったので、気軽に話し合いに加わることができました。

○区長さんがざっくばらんなお人柄だということが分かり、気楽にお話できてとても楽しい会になりました。ますます、杉並が好きになりました。

○水害は、自分には関係ないと思っていたが、杉並区の水害対策を知ることで理解を深めることができました。他人事としてではなく、自分の問題として、考えることが大切だと思いました。

○司会進行が素晴らしく、他の人の意見を認め、否定しない事という方針のもとで初めて会った方とも楽しくお話できました。初めは心配でしたが、とてもいい時間を過ごせたと思います。





今回の懇談会は 18 歳から 75 歳までの無作為抽出の区民 2,000 名にご案内し、参加希望者の中から 11 名の方に参加いただきました。

「すぎなミーティング」の様様をダイジェスト動画でご覧になれます。



編集後記 区政相談課

梅雨や台風シーズンを前に開催されたこの日、午後から比較的強い雨が降り、会は和やかな中にも一層の現実味を帯びながら進みました。最初は緊張されることもあったと思いますが、皆さんいろいろとご発言いただきありがとうございました。この報告書は区長の話や出席者の方のご意見等を抜粋して編集させていただきました。いただいたご意見を、今後の取組に活かしてまいります。

～すぎなミーティング報告書～ 令和元年12月 編集・発行 総務部区政相談課
〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号
電話3312-2111